

C-71 西洋服装 (1855~1860年代と1880年代)にみるデザイン・裁断・縫製の傾向  
文化女大家政 ○小松正子 高塚千恵子

目的 昨年は1920~1930年代の西洋服装史料について発表をした。今回は引き続き1855~1860年代と1880年代の西洋服装史料(大石企画株式会社所蔵)の調査分析研究をしたのでその概要を報告する。

方法 まず作品をデザイン(形態・素材・色物・装飾)、裁断、縫製の面から分類整理し、共通点や特徴を抽出して史的考察を加えた。

結果 ・デザイン 1855~1860年代の服装の特徴は、ウエストはできるだけ細く脹らんだスカートのクリノリン衣裳で、肩はドロップショルダー、上着の裾は前後中心で鋭角に無れ、ウエストの細さを強調したものがみられる。スカートには曳き裾や2枚重ねのスカートもある。1880年代はウエストが細く後ろ腰を脹らませたバススル衣裳である。素材はシルクのタフタ、カシミア、レースなどのほか、1枚の衣裳に素材の異なる布を組み合わせた、同色で異素材の組み合わせもみられる。装飾はレース飾り、トリミング、布襷飾り、ピンタック、タック、プリーツ、刺繍などである。

・裁断 両年代とも身頃の裁断は切替え線とダーツでウエストを細め、袖は腕にそった2枚袖である。クリノリン衣裳のスカートはギャザーとプリーツでたっぷりした裾まわりを出し、バススル衣裳の後ろ腰の脹らみは深いプリーツで形作っている。

・縫製 身頃の仕立て方は艶のある綿布を総裏打ちし、ダーツや脇縫い目にボーンが入っている。スカートには時計ポケットやシームポケットがある。クリノリンのオーバースカートの裏面にテープがついていて、結んでスカートをたくし上げる仕組みになっている。